

平成 20 年度

住まいのバリアフリーリフォームコンクール

開催概要／結果発表

社団法人 かながわ住まい・まちづくり協会



開催概要

主催：社団法人かながわ住まい・まちづくり協会

後援：神奈川県、(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター、(財)神奈川県建築安全協会、(社)神奈川県建築士会、(社)神奈川県建築士事務所協会、(社)神奈川県建設業協会、神奈川県木造住宅協会、神奈川県建設労働組合連合会、(株)神奈川新聞社、(株)建通新聞社神奈川事務所

【コンクールの主旨】

当協会では、これまで加齢などによる身体機能の低下や障害を負った方を対象に、住み慣れた自宅で継続して生活を送るための住宅改造に関する現地相談を実施してきました。特に建築士に加え、医療・福祉分野の専門家が連携し対応する“チームアプローチ”による手法は、建物のハード面だけでなく、住まい手の生活動作等にも配慮し、在宅介護や自立生活を支援するために有効な相談体制として、その後、全国に波及していきました。また、相談内容を適切な施工へと導くため、バリアフリーに関する一定の研修を受講した住宅改造施工業者の担当者を登録し、登録後もスキルアップを支援する取り組みも実施しています。

本コンクールは、こうした実績を踏まえ、神奈川県内で施工された住宅リフォームの事例の中から、特にバリアフリー化への配慮を重視した施工事例を募り、優秀な事例の表彰を通じて、消費者や事業者に紹介することにより、住宅におけるバリアフリーリフォームの普及と技術力向上、リフォームに関わる産業の活性化等を促進することによる住文化の向上に寄与することを目的に実施しました。

【募集概要】

- 募集期間 平成20年10月7日(火)～11月28日(金)
- 募集対象 平成18年10月から平成20年9月までの間に工事が完了し、加齢などにより身体機能の低下または障害を負った方(若年障害者を含む)が対象者となる神奈川県内の住宅のバリアフリーリフォーム工事(部分的なリフォームも可)

- 審査方法 書類審査(1次)及び現地審査(2次)
- 審査委員 委員長 野村 歡 [国際医療福祉大学大学院教授]
委員 大畠一昭 [(株)神奈川新聞社営業戦略室長]
大原一興 [横浜国立大学大学院教授]
長田喜樹 [神奈川県県土整備部次長]
立川悦子 [逗子市社会福祉協議会事務局長]
土屋辰夫 [神奈川県リハビリテーション支援センター地域支援室室長]
星野芳久 [(社)かながわ住い・まちづくり協会相談役]
(順不同)

【審査結果】

- 応募作品数 総合部門5作品、部位別部門4作品(合計9作品)
- 優秀賞 総合部門 「いきいき、のびのび、車椅子生活」＝横浜市保土ヶ谷区
／東京ガスリモデリング(株)
- 入賞 総合部門 「車椅子生活対応リフォーム」＝湯河原町／(有)勝建ホーム
「家族の想いでを活したリフォーム」＝横浜市神奈川区
／(有)シンセリティ・トリートメント・カンパニー
部位別部門 「変幻自在トイレで将来の不安も解消！」(横浜市旭区)
／(株)フジックスハートフル
「外出するのがワクワクになりました。」(茅ヶ崎市)
／(有)高橋ハウジング

【発表・表彰式及び特別講演】

- 日時 平成21年2月24日(火)、12:30～16:30
- 会場 横浜情報文化センター6階 情文ホール(横浜市中区日本大通)
- 日程 ①コンクール応募作品展示・来場者コンテスト
②コンクール総評・講演「バリアフリーの住まいづくり」
講師－国際医療福祉大学大学院教授 野村 歡 さん
③コンクール入賞作品表彰式
④特別講演:「噺家の師匠と弟子」 落語家 笑福亭鶴光 師匠
⑤リフォーム相談会

総 評

国際医療福祉大学大学院教授 野村 歡

高齢社会が急速に進捗するなか、新築住宅のバリアフリー化はかなり国民の理解を得ながら進んできているが、既存住宅のバリアフリー化は、いろいろ厳しい状況にあるのだろうか、思うように進んでいないのが現状である。国のデータから見ても住宅全体のバリアフリー化が6%前後であることから推測すると、その必要性がある高齢者世帯や障害者世帯であっても、日常生活に不便不自由を感じながらも毎日の生活をおくっている人々が大勢いることが容易に察せられる。

社団法人かながわ住まい・まちづくり協会は、このような状況を鑑みて、住宅のバリアフリー化を活性化するためにこれまで住宅相談や

住宅改造施工事業者の登録制度等を実施してきたが、今回、住宅リフォームの優秀事例の表彰を通じて、消費者や事業者に紹介することにより、バリアフリーリフォームの普及と技術力の向上、リフォーム業界のいっそうの活性化を願い、「住宅バリアフリーリフォームコンクール」を企画した。

この企画に対する広報は十分に行ったが、今年は初めてだったこともあり、応募総数は9件（戸建て8件、マンション1件）であった。部門別では、総合が5件、部位別が4件であった。このように応募総数は少なかったが、入賞作品はいずれも意欲的な作品であった。

審査は、2段階に分けて行った。

第1段階では、部門別に「コンクールの主旨にあっているか」「対象者の生活動作や生活スタイル等を考慮したバリアフリー工事が行われているか」「福祉・医療など、他の専門分野との連携が活かされているか」「経済性に配慮さ

れ、効率的に計画されているか」「新しい発想や工夫が盛り込まれているか」「デザイン的な配慮があるか」を軸に、各審査員が総合的に判断した結果を基に討論を重ね、「優秀賞」「入賞」を確定した。

第2段階では、総合部門に入賞した応募作品三点に対し、審査委員全員が一緒になって現地調査を行い、施工者並びに住人から説明を受けた。その結果をもって再度の投票を行い「優秀賞」を決定した。

審査は厳正を期すため、無記名の応募作品に各員が評点を行い、公正な審査ができたと考えている。

今回のコンクールは応募作品が少なかったが、今後も継続して実施されることを希望し、コンクールの知名度を上げていって欲しい。そのためには、設計者・施工者の積極的な参加を期待すると同時に行政からの支援も期待したい。

◇総合部門（5件）

所在地：横浜市3件、鎌倉市1件、湯河原町1件

築年数：平均35.2年（最新21年、最古51年）

リフォーム工事面積：平均83.9㎡（最小49.38㎡、最大170㎡）

リフォーム工事費：平均1,326.4万円（最低610万円、最高2,360万円）

リフォーム工事費単価：平均17.1万円（最低9.3万円、最高33.6万円）

対象者年齢：平均67.2歳（最低48歳、最高82歳）

◇部位別部門（4件）

所在地：横浜市3件、茅ヶ崎市1件

築年数：平均27年（最新24年、最古30年）

リフォーム工事面積：平均19.4㎡（最小3.5㎡、最大38㎡）

リフォーム工事費：平均182.3万円（最低120万円、最高250万円）

リフォーム工事費単価：平均19.0万円（最低3.2万円、最高34.3万円）

対象者年齢：平均55歳（最低28歳、最高69歳）

■工事データ

所在地	横浜市保土ヶ谷区
住宅種別	マンション
構造／築年数	鉄筋コンクリート造／21年
工事面積	65.6㎡（住宅規模 65.6㎡）
工事費	610万円（内助成金 0円）
家族構成	夫（44歳）・妻（48歳）・長男（14歳）

■施工会社のコメント

車椅子で生活されている奥様のためのリフォームです。

洗面室は、洗濯機用の排水の関係で約7cmの段差がありました。洗濯機置き場の床のみを上げ、配水管を浴室の下を通すことで洗面と廊下の段差を解消。洗面や洗濯と出入りの多い洗面室へのアプローチが楽になったと大変喜んで顶けました。柱の内側にレイアウトされて狭かったユニットバスを柱の外に移動し、10cm広い浴室を設置。移動によってできたスペースは、寝室からの収納に取り込みました。

介助者とするトイレは狭かったので、寝室の物入れを無くすことで広い部屋にしました。出入り口を引き戸にしたので車椅子での出入りも可能になりました。

独立型のキッチンが間仕切り壁を撤去し、L型からI型にレイアウトを変更。吊り戸棚も使えるように電動昇降ユニットを設置。タッチ水栓・換気扇リモコンを取付け、廊下との段差も解消。収納も

リフォーム概要

増やし、車椅子での動線に配慮した機能的なキッチンになりました。

玄関収納は車椅子への乗り換えに邪魔なため、キッチンの吊り戸棚を再利用して取付け、壁面には傷防止のために一部キッチンパネルを張りました。

和室をなくし、車椅子で自由に動ける広いリビングにしました。動線を考慮してキッチンへの床を斜めにカット。壁面いっぱい設けたリビング収納も棚の高さを奥様が使いやすいよう設定しました。また、雨の日でも洗濯物が干せるよう電動昇降式の物干しユニットを窓際に設置。使い勝手も良いとのこと。部屋の入口は全て引き戸とし、各部屋への移動がとても楽になったと喜んで頂いております。

《改造前》

【廊下・洗面・和室】



スロープ

① 廊下正面に和室の壁が出っ張っており、動線がよくなかった。

② 廊下と洗面室の段差は70mmあり、スロープを取付けていた。

【キッチン】



スロープ

③ 廊下とキッチンの段差は45mmある。

スロープ

④ 扉タイプのキャビネットは車椅子では開閉が困難。吊戸棚も高く、手が全く届かない。

《改造前》



《改造後》



《改造後》



A 廊下との段差が無くなった洗面室入口。手摺は福祉用具相談員と連携して位置や高さを決定。



B リビングと一続きの機能的なキッチン。



C 30cm広くなったトイレ。



D 収納も充実。物干しユニットもある明るいリビングダイニング。

講

【作品の主旨】

車いす使用の妻（先天性体幹機能障害）が、日常生活をする上で動きやすい住まいにするための、マンション住戸の全面リフォームである。

【全体評価】

対象者の障害及び体型、車いすの寸法および操作能力を十分に見極めた空間設計で、施主の満足度の高いリフォームである。

ご本人が障害を良く理解され、専門分野（横浜市総合リハビリテーションセンター）の意見を聞きながら行った理想的なリフォームで、無駄がなく必要な箇所に必要なものだけがついている（手摺、スイッチ類等）。

【各部評価】

和・洋室に分かれていた居間空間を統一し、広々とした居間となった。

従来は全て開き戸であったものを、公的空間（居間と台所）については扉を撤去し、私的空間（個室）については引き戸とし、段差解消が不可能な浴室以外については、さまざまな工夫により段差を解消しており、車いす生活での利便性を著しく向上させている。

居間とキッチンの境隔壁を撤去し、接続部分の隅切りを行っており、視覚的にも行動的にも開放感、移動の容易性を実現するとともに、照明器具、床面素材を柔らかく暖かみのあるものへ変更し、居住性も向上している。

特にトイレが広くなったことにより車いすの回転が可能となり、介助者も一緒に入ることができるようになったことの利便性の工夫は評価できる。対象者が小柄で、ト

評

イレ、キッチンなどで小回りが利くため、いろいろな面でうまくいっている。

キッチンは、車いすで動きやすくするとともに、高い位置の吊り戸棚も車いすで使用できるよう電動昇降ユニットを設置したことやタッチ水栓、換気扇リモコンを取り付けるなどの工夫は高く評価できる。

その他、洗濯物が室内で干せるよう電動昇降式の物干ユニットをリビングルームの窓際に設置した点など、多種多様な工夫が見られる。

本人は満足して使いやすいといっているが、あえて言えば、キッチンコンロの高さが本人の姿勢と合っておらず、調理の際に鍋の中が見えにくいことや揚げ物などの際に油がはねる危険があること、また、車いす使用者には基本的にI型よりL型が使いやすいが、既存のL型をあえてI型にした点などの疑問点もある。

【まとめ】

図面を一見しただけでは車いすへの配慮が不十分のように見えるが、実地検証ではそのようなことは全くない。改修プランは良くできていて、それを着実に施工したことがこの作品が成功した最大の要因である。

「自分でできることは自分ですのための住宅」というコンセプトが感じられ、制約の多い集合住宅（マンション）のリフォームに積極的に取り組み、高い水準に達している。

全て車いす生活の「必然性から生まれた動線やレイアウト」でつくられているにもかかわらず、デザイン的にもシンプルで明るく開放的な印象がもてる。リフォームの普及の観点からも工事費もそれほど高くなく、マンション専有部分のリフォームモデル事例として参考となる作品である。

■工事データ

所在地	足柄下郡湯河原町
住宅種別	戸建て
構造／築年数	在来木造／30年
工事面積	49.38㎡（住宅規模 108.9㎡）
工事費	662万円（内助成金 0円）
家族構成	母（82歳）・長女（55歳）

■施工会社のコメント

【動機と要望】

お施主様は右大腿骨骨折で入院され、リハビリを行っている状態でした。以前には左大腿骨骨折もしており、退院後の自宅生活に不安をお持ちでした。

退院後はまず杖歩行で自立を目指す、将来、車椅子使用になった場合の計画も含め提案がほしい、とのことでスタートしました。

【設計の工夫】

既存建物では各所に段差があり、また通路幅も狭いため、車椅子での生活はほぼ無理な状態でした。

そこで、寝室の位置を元和室へ移し、新たな寝室から水廻り及びLDKを隣接させることで移動の緩和を提案。また洗面脱衣所においては、車椅子でも自立が図れるようスペース、設備品に配慮しました。

最初から車椅子を使用する訳ではないので、手すりの取付併用にて自立支援を

リフォーム概要

考えました。

【施工の工夫】

住宅設備品選択の工夫。

洗面台はTOTOの「座ドレッサー」を採用し、歩行または車椅子の両方での高さの調節が可能。

トイレはお施主様専用のオープンスタイルで壁を取り払ったため、跳ね上げ手すりを両サイドに取り付け、片側はペーパーホルダー、もう片側はオリジナルでリモコンを設置した。解体後に発覚した構造の不具合については、施工中速やかに対応しました。

《改造前・A》



客間であった和室を洋室に変更し、寝室としました。細部は仏壇スペースと収納の確保および敷居段差をなくしました。隣接する洗面所、LDKの入口建具は三本引き戸で提案しました。

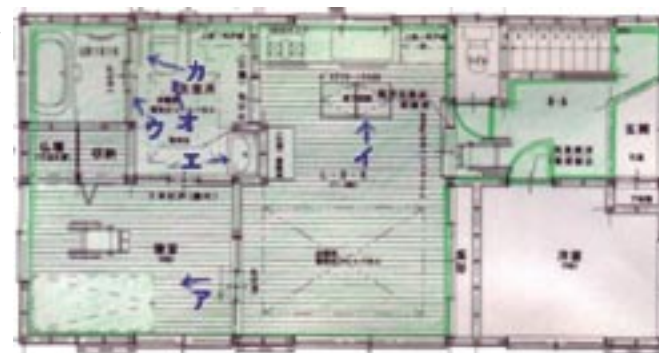
《改造後・ア》



《改造前》



《改造後》



《改造前》

B



キッチンが車椅子での対応も可能なトステムクレディアを設置。

C



浴室はユニットバスを設置し、入口もフラットの三本引き戸としました。

E

洗面化粧台は高さ調節が可能な TOTO「座ドレッサー」。



O

洗面所は車椅子でも十分動けるスペースを確保し、同室にオープントイレを設置。



《改造後》

I



U



カ

壁が無いので、跳ね上げ手摺を両側に取り付け。片側はペーパーホルダー付き、片側はリモコンを加工して取り付け。



講

評

【作品の主旨】

2度の転倒により左右それぞれの大腿骨折入院を経た高齢者（82歳）が、退院後、杖歩行のための手すり取り付けによる安全確保と、将来の車いす生活も想定したバリアフリーリフォーム。

【全体評価】

特に足もとの安全性に重点をおき、住宅内の段差解消、対象者の主な生活空間である寝室およびトイレ、脱衣・洗面室、浴室部分の開口部の拡幅（3本引き戸）により、室内移動スペースの確保を行っている。住宅バリアフリーの基本的な（ミニマムな）配慮は実質的で評価に値する。工費もリーズナブルである。

【各部評価】

かつて畳室（和室）であった部分に寝室を移動し、床をフローリングにするとともにリビング・ダイニングを隣接させ、ワンルームのように移動しやすく配慮している。また、押入れを取り外して、洗面・脱衣室・トイレに直接行けるようにしたことで、夜間時のトイレ使用に配慮している。

手すりを要所に取付けた点や、洗面・脱衣室は、将来、車いす使用になった場合も自立して利用できるようにスペースを確保するとともに、キッチンも車いすに対応可能な商品を採用した点は良い。

浴室はユニットバスに変更して入

口の段差を解消し、また3本引き戸に変更し出入口幅を広くしたことは良いが、シャワーチェアは、浴室の広さからみて、もう少し小さめにし、併せて高さを浴槽縁と揃えたほうが使いやすいのではないかと。

オープンスタイルのトイレは、ひとり暮らしの場合には利便性の点で良いが、（従来のトイレは別にある）来客時にトイレを使用する場合も考慮して、カーテンなどの目隠しがあったほうが良い。

【まとめ】

間取り、空間構成については、本人のニーズにうまく対応し、本人および家族の希望をきちんと理解している。ただし、福祉用具（ベッド、シャワーチェア）類についても、もう少しきめ細かい配慮があると良い。こうした面については、今後福祉部門との連携があれば改善されると考えられる。

また、押し入れを取り外したために衣装ハンガーが溢れ出し、また椅子が置かれていることから、移動の障害となる恐れがある。本人はこれまで2度転倒をされていることから、今回の改修は予防のためのリフォームとも考えられるが、夜間の頻尿があるとのことなので、ベッドから居室出口への移動の安全性にもっと配慮があると良い。

バリアフリー化とは直接関係しないが、リフォームを機にシロアリ対策、断熱対策、浴室テクスチャの変更、工期短縮のために職人を通勤させず現場近くに宿泊させるなどの工夫を行っており、施工業者の努力は高く評価できる。

■工事データ

所在地	横浜市神奈川区
住宅種別	戸建て
構造／築年数	木造／51年
工事面積	70.3㎡（住宅規模 113.6㎡）
工事費	2,360万円（内助成金 0円）
家族構成	夫（61歳）・妻（60歳）・長女・ペット（猫）

■施工会社のコメント

2007年初夏、T様から8月に定年退職を迎えるのを機に、現在の家をリフォームできないかのご相談を受け、「ゆっくりが好きです」のテーマで改築設計の提案を致しました。

ここ数年、暮らし方に対して世の中の動きや変化が、一段と速くなっているように感じています。また、私たちリフォーム店においても、家に対する耐震性や安全性への迅速な判断や対処を求められる場面が増えています。

だからこそ一方で、夫婦水入らずの生活空間の時間軸を、時にはゆっくりととらえ、或いはじっくり過ごすことが、いっそう大切になるのではないかと私たちは考えています。なぜなら、速さを追求することにとられすぎると、目先のことに気をとられ、その本質を見失ってしまうことがあるからです。

リフォーム概要

私たちは、年齢によって生じる憩いの時間を一時的に取り繕うのではなく、その根本を解消していくために、今までともに暮らしてきた部材と新しい製品を組み合わせ活かす、癒しの室内空間を造っています。それはいわば、今だけの満足をお届けするのではなく、お客さまの生涯に役立ちたいと願う「生涯製品」と捉えるリフォーム空間をお届けするためです。

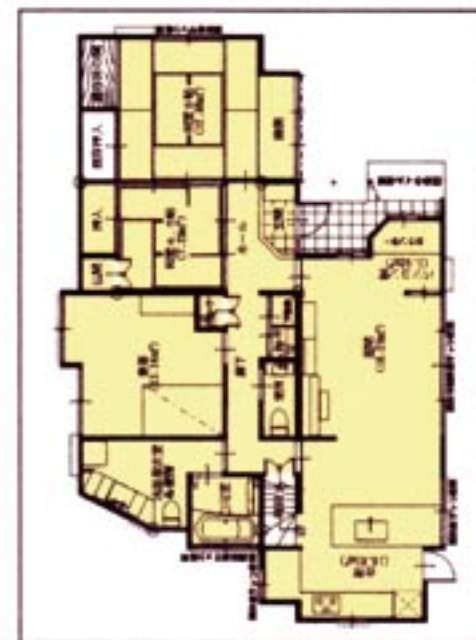
《改造前》



《改造前》



《改造後》



《改造後》



講

【作品の主旨】

現在は健常な夫婦世帯であるが、夫の定年を機に、将来を見込んだ安全・安心の暮らしを求めているバリアフリーリフォームである。

【全体評価】

リフォームを機に空間構成の大胆な再編成を行うとともに、築50年を越える建物の施主にとって愛着ある部材を再利用するなど「継承」も実現した好事例。

建物の隅にあった玄関を中央に移すことで中心に移動空間の主軸をおき、それを境として公的空間（居間と台所）と私的空間（個室）とを区分している。また、既存住宅での水回りを巧みに活用して配管等の工事も最小限になるようによく考えられている。

将来に向けての「高齢化対応」住宅であるが、移動スペースの段差は解消されている、廊下にはまだ手すりを設置していないが、将来必要になったときに設置すれば歩行が不自由になっても十分に対応できるし、車いす使用になっても十分に対応可能である。手づくり感のある建具などの工夫は、施主の期待に応じて高い満足をもたらしている。

【各部評価】

公的空間（居間と台所）は隔壁を撤去してワンルームとしたために開放的で気持ちがよい。それに対して、

評

私的空間（個室）は家族の思い出のこもった場として保存に努め、特に和室は外国からの来客にも喜ばれている、という。さらに、家族の手づくりや思い出の造作等が建物各所に形を変えながらも活用保存されており、手間と費用は要したであろうが、ぬくもりを感じさせる仕上がりとなっている。

前述の建物中央に配された移動主軸に便所等が付加され、開放感と移動容易性がやや損なわれた感があるのが残念であることと、引き戸にこだわったのは良いが、引き残しがない点、引き手が小さいなど、ディテールはもう少し配慮が欲しい。

【まとめ】

建物の耐震補強、バリアフリーなどの安全性の改善なのか、見た目を綺麗にすることなのか、住み易さの改良なのか。古い部材を活かした継承など、リフォームとは何かを問題提起している事例と言える。

コンクールの主旨からは、トイレ、浴室等一部に手すりを設置したほうがよいと考えられるが、玄関までのアプローチに長い階段がある立地条件を考えると、施主がどのように将来生活をイメージするかを見極め、万が一障害が発生した時点で改めて再度のリフォーム対応でよいとも思われる。

潤沢な改修費用と施主のこだわり、施工者と施主との綿密な打合せがあったからこそ実現したデザイン性に優れた住宅改修である。

■工事データ

所在地	横浜市旭区
住宅種別	戸建て
構造／築年数	軽量鉄骨造／26年
工事面積	3.5㎡（住宅規模 126㎡）
工事費	120万円（内助成金 0円）
家族構成	ご夫妻（68歳）・長男（35歳）

■施工会社のコメント

60歳代後半のご夫婦、ご子息の3人家族。現在は全員ご健康でありながらも、将来の自立生活に対する不安が大きい。例えば、室内においても車椅子や杖使用の歩行になってしまったり、片麻痺になってしまった時にでも、あわてて改造しなくても良いようにしておきたいという動機。「将来のいかなる身体状況でも使用できる設備を！」という強いご要望。

将来の身体状況想定は困難だがあえて先行。但し、基本として加齢による運動機能低下と感覚機能低下。併せて、肢体片側機能に不具合が生じることなどを仮定して、福祉用具の使用も含めて、その時点で即座に対処できるよう、設備や造作物に可変性を持たせることにした。

【工夫した点】

1. トイレと洗面脱衣室を一体化して広いスペースをつくり、廊下との出入りをスムーズにするため、開口拡張して3枚連動引き戸を設置。
2. 便器使用が全方向の180度から可能なように、壁から45度で設置。さら

リフォーム概要

に将来の必要性に応じて便器の回転も可能にしている。

3. 排せつ関連の小物や消耗品収納スペースと、アームレストを兼用した着脱・移動可能のカウンターボックス家具を製作。
4. 紙巻き器及びウォシュレットリモコンは、使用する時だけスライド引き出しにして、余分なスペースや造作を排除。
5. 照明器具はスイッチ操作不要の人感センサータイプ。

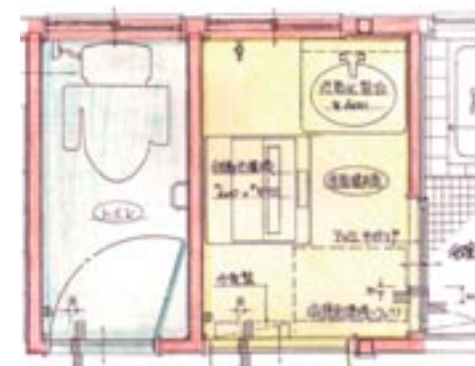
将来的には、便器への側方アプローチにはボックス家具の除去や手すりの固定、便器の方向転換などで、仮に車椅子でも自在に取り回しできる。

ご家族には大きな驚きと、「将来の不安が一気に解消した」という感動をご提供できた。小さなスペースこそ、創意工夫が重要であることを改めて認識する住環境整備であった。

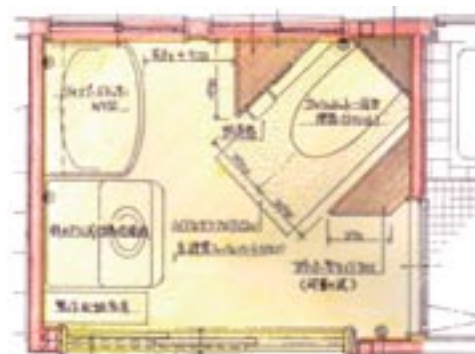
《改造前》



《改造前》



《改造後》



《改造後》



講

【作品の主旨】

現在は、健常な 60 歳代後半の夫婦と息子の 3 人家族。将来、片麻痺等になって車いすや杖歩行状態になったときを想定したリフォーム。

【評価】

トイレと洗面・脱衣室の壁を取り除くことにより、一体型の広いスペースにするとともに、3 枚引き戸により出入口を広くしたことは動きやすくてよい。

一室化して広くなったとはいえ決して十分とはいえないスペースを巧みに活用して、いろいろな生活容器が置かれ多様な生活動線を生じる場の要の役割を果たしている。

便器を 45 度に振ったのは秀逸。そのことにより便器のアクセスがより容易になったことや、将来の必要に応じて便器を回転可能にしたことで、将来の体の状態に合わせて自由自在に容易に対応できるよう配慮した点は評価できる。

便器の配置により生み出されたコーナーには、小物収納スペースとアームサポートを

評

兼用した移動可能なカウンターボックス家具を配置し、ペーパーホルダーをスライド式にするなど、アイデアを豊富に盛り込んでいる。

この四角ではない形の家具が利便性を向上させ、部屋の雰囲気や和ませる効果を発揮している。

照明器具も人感センサータイプに変更してスイッチ操作を不要にした点も利便性が高い。

強いて言えば、このスペースは脱衣室を兼ねているので、入浴時には多少の不便を感じるのではないかな。多分、便器の上に衣類などを乗せることになるのかも。

【まとめ】

リフォームをする場合には施工前と施工後での目に見える変化が欲しいし、できれば驚きも欲しいが、こんな風に変えたと楽しいという好事例。工事費も含めて、これからリフォームしようという意欲をかき立てる。トイレの持つ閉塞感から解放され、福祉用具の使用を含めて、設備や造作物に可変性を持たせるなど、細部の工夫も生きている。

■工事データ

所在地	茅ヶ崎市
住宅種別	戸建て
構造／築年数	PC造／24年
工事面積	8㎡（住宅規模 123㎡）
工事費	237万円（内助成金 20円）
家族構成	父母（50歳代）・本人（28歳、女性）

■施工会社のコメント

筋ジストロフィー症により全身の筋萎縮による筋力低下で、ここ2～3年で立上がり能力低下が著しく、日常的な移動が困難になりつつある状態でした。ご本人はとても明るくて筋ジストロフィー症を真摯に受けとめ、「自宅と社会の繋がりを今後も続けていきたいので段差解消のリフォームをしたいのです」と立ち向かう意欲には私自身も感銘を受けました。社協の方と一緒にご本人のお宅へ伺った時には、ご両親の人柄もとても良く、さらに私自身のやる気に火をつけられたリフォーム工事です。

設計段階では駐車場から居間までは段差解消機の設置により、段階的に進行される症状に応じて使い分けをする計画としました。現段階では玄関からのアプローチとし、将来的にコンクリートのテラスの上に木製デッキを作って車椅子のまま居間へアプローチできるように二段腰の計画をしました。施工直前にご家族の提案により、段差解消機の前にスロー

プを設けたことにより結果的に三段腰の計画となりました。

完成時には駐車場からご本人が杖を使ってスロープを歩き、玄関からホールへの段差解消の固定した踏み台に乗り、縦横の手摺を使ってホールへスムーズに移動して笑顔で振向いた姿がとても印象に残ってます。ご家族の温かい目とご本人の努力が生活意欲・移動意欲を増大させています。今回のリフォームにより移動経路を安全に確保できましたので、今後ご本人がますます社会との繋がりを深めていき、自己の満足が広がることを願って見守り続けたいものです。

リフォーム概要

《改造前》

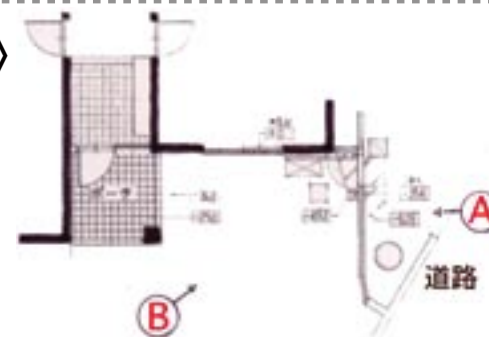


A

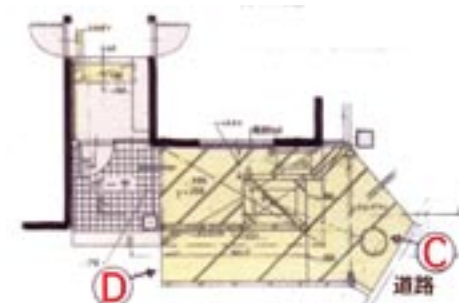


B

《改造前》



《改造後》



※テラス屋根は当社の施工ではありません

《改造後》

C



D



講

【作品の主旨】

筋ジストロフィー症の28歳女性の将来を見通して、玄関から駐車場までのアプローチを含む外部空間について、次第に筋萎縮と筋力低下が進行する特有の症状に応じて、段階的に計画されたリフォーム事例。

【評価】

駐車場から居間までの動線を確認するために段差解消機を設置するとともに、併せてスロープを設置したことで、屋内外の出入りがスムーズになったことはよい。現段階では玄関からのアプローチとしているが、将来的には、大きくとったコンクリートのテラスの上に木製デッキを設置し、車いすでの居間へのアプローチを可能にすることも考慮している。

万が一、災害が発生したときには「二方向避難」が重要とされるが、この住宅改修案はこの条件を満たしており、ペーパメントの改良や、通路空間と非通路空間（花壇等）を明確に分離し、通路空間には余計な品物が溢れ出ないよ

評

うにしたことは、移動の安全性と利便性向上に資するものと思われる。

施主本人の意欲を尊重し、十分にコミュニケーションをとった上で段階的に整備していく計画を採用している点はバリアフリーのプロセスとして高く評価できる。また、本人の満足も得ている様子である。

【まとめ】

玄関周辺の住宅改修は、スペースの確保や見栄えのこともあって難しい。一方で社会との接点を確認することでどうしても屋外に出やすいことを考えなければならない。

障害者である施主の切実な願いが叶ったリフォームで、極めて実質的なバリアフリーリフォームといえる。コンクリートの主旨からいえば、新しい発想とか工夫をどうしても求めてしまうが、本来のリフォーム（バリアフリー）はこういった地味で着実なものかも知れない。

